

〔 特 集 〕

現場の外からみた「保育」 ～今までと違う視点で～

「保育」について特集を編集するというご依頼をいただいて、今まで保育所に健診にうかがったり、医学的なアドバイスをしたりしていましたが、「保育とは何か、どうあるべきか」について考えたことがないことに気づきました。

しかし、私たち医師も、保育を支える柱の一つです。編者として「未来の保育がよくなるための一冊にしよう」と心に決めました。

そのために、保育をとりまく現状を共有してくれ、保育の現場で働いている人（保育士さんや幼稚園の先生たち）を勇気づけてくれる最適な執筆者をお願いしました。

医療サイドからは、感染症、アレルギーと病児保育に絞りました。行政サイドから聴こえる「福祉の現場での葛藤」については医師も必読です。そして、何より大事にしたのは、「子どもにかかわる人たちが楽しく成長する」情報を伝えることです。子ども教育にかかわる動作のプロが提唱する「観察して導く」方法は、私にとって目から鱗が落ちる内容でした。現役の保育士やそのしくみを作る仕事人からは医療でも明日から使えるプロフェッショナルリズムを学びました。違いを分かち合い・認め合い、全体として子どもたちに最高の保育の場が手渡されるきっかけになる一冊となったことを確信しています。

（こだま小児科／児玉和彦）

